

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2021年
1月13日



第109号

タケ (イネ科)

「タケ」は、植物の種名ではなく、イネ科タケ亜科に属する植物の総称です。この写真は、七福神にあるめでたい名の「ホテイチク」。園近くグラウンドのクラブハウス裏に小さな竹林を作っています。タケは成長が真直ぐで生命力の象徴と繁栄を意味し、種々のタケが門松に添えられています。タケは日本に約150種、世界には約600種（1200種とも）あるといわれます。また、昔から木本か草本か議論の尽きない植物ですね！タケは稈が強靱で細工が容易、木材に無い弾力性から、多くの生活道具として使われています。薬用にはハチク、マダケが用いられ、それらの稈の内層が生薬の竹茹（チクジョ）となり、清熱化痰を目的に清肺湯や竹茹温胆湯などに、葉が竹葉（チクヨウ）となり、清熱除煩を目的に竹葉石膏湯に、稈をあぶって出た液が竹瀝（チクレキ）となり、清肺を目的に苓連二陳湯に配合されます。

マンゴー (ウルシ科)

いま温室で花が見られます。“くだものの女王”と称され、宣伝写真で見る“花咲カット”された黄金のフルーツは、今や日本の夏を彩る果実の一つとして根づいています。日本では、明治時代には試験栽培され、ハウス栽培の技術発展により昭和60年代に経済栽培が始まりました。日本人には近代的な果実ですが、原産地と推定されるミャンマーやインドでは、4,000年以上前から栽培され、庶民のおやつや種々の郷土料理に登場します。中国では、マンゴーの果実を乾燥させたものが、芒果（ボウカ、中国語読みでmángguǒ）という生薬となり、益胃、生津、止嘔、止咳の効能が謳われていますが、日本の漢方医学では使用しません。ドライフルーツとして美味しく頂戴すればよいと思います。